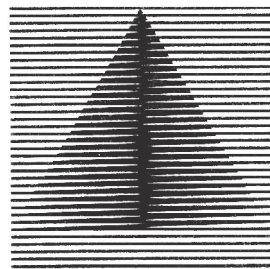


教育実践総合センター

# 研 究 紀 要

第 59 号



2025年

山 口 大 学 教 育 学 部  
附属教育実践総合センター

# 目 次

## 教師教育研究

- 教育学部学生による「スマートフォンを使った疑似観察」に関する一考察  
ー小学校の第6学年「月と太陽」においてー

佐伯 英人 …… 1

- 学校教育における美術教育の意義

西村 優子・福田 隆眞 …… 7

## 学校教育臨床研究

- 青年期ASD当事者に対する在宅セルフリラクセーション実施における効果測定の試み（1）  
ーバイタルサイン数値および心理検査による効果測定ー

田中亜矢巳・木谷 秀勝・松岡 勝彦 …… 19

- 青年期ASD当事者に対する在宅セルフリラクセーション実施における効果測定の試み（2）  
ー内省報告による分析ー

田中亜矢巳・木谷 秀勝・松岡 勝彦 …… 27

- 教育現場における生徒ー教師間の信頼関係の性質

佐竹 圭介 …… 35

- 小学生の悩みと相談に対する意識

春日 由美・小野 陽子・佐竹 圭介・田中亜矢巳 …… 43

## 教育実践研究

- オンラインシステムを活用したペアレント・メンター交流型研修会の成果と課題  
2 地域での試行的取組を通して

柳澤亜希子 …… 53

- 3Dプリンターによる造形物を教育利用するための強度に関する検討

岡村 吉永 …… 63

- 中学校学校体育でのクラウチングスタートの現状  
ーコール前後の振る舞いに着目してー

斉藤 雅記 …… 69

セストボールにおける即時フィードバック可能なICT環境の活用とその効果	
齊藤 雅記・増田 翔士 .....	73
数学的な考え方が結びつく授業づくり	
ー統合的・発展的に考える学びの実現に向けてー	
田中 詩織・足立 直之・泉池 耕平 .....	81

Bulletin of the Integrated Center for Education Research and Training  
2025.3  
CONTENTS

**Teacher Education Research**

A Study on “Simulated Observation Using a Mobile Phone” by University Students in the Faculty of Education:  
Regarding “The moon and the sun” in the 6th grade of elementary school

SAIKI Hideto ..... 1

On the Significance of Art Education in School

NISHIMURA Yuko, FUKUDA Takamasa ..... 7

**School Education Clinical Research**

Attempt of the effect measurement in the self-relaxation enforcement at home for Autism Spectrum Disorder  
at Adolescence: The effect measurement of vital signs and psychological test

TANAKA Ayami, KIYA Hidekatsu, MATSUOKA Katsuhiko ..... 19

Attempt of the effect measurement in the self-relaxation enforcement at home for Autism Spectrum Disorder  
at Adolescence: The Analysis by introspective

TANAKA Ayami, KIYA Hidekatsu, MATSUOKA Katsuhiko ..... 27

The Nature of Trust Between Students and Teachers in Educational Settings

SATAKE Keisuke ..... 35

The Worries and Concerns of Elementary School Students and Their Attitudes Towards Consultation

KASUGA Yumi, ONO Yoko, SATAKE Keisuke, TANAKA Ayami ..... 43

**Educational Practice Research**

Merits and Challenges of Workshop for Parent Mentors Using Interactive Online Systems:  
An Implementation in Two Regions

YANAGISAWA Akiko ..... 53

A Study on the Strength of 3D Printed Objects for Educational Use

OKAMURA Yoshihisa ..... 63

Current situation behavior of Crouching start for physical education in junior High school

SAITO Masaki ..... 69

Examining the results of using ICT of immediate feedback Through analysis of physical education classes using cest-ball teaching materials	SAITO Masaki, MASUDA Shoji	73
Creating classes that connect mathematical ideas: Aiming for integrated and developmental learning	TANAKA Shiori, ADACHI Naoyuki, IZUCHI Kouhei	81

## 教育実践総合センター研究紀要 編集規程

### 1. 研究紀要の刊行

- (1) 山口大学教育学部附属教育実践総合センター（以下「センター」と記す）は、研究紀要を原則として年度につき2回刊行する。
- (2) 研究紀要の名称は「山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要」とする。
- (3) 研究紀要は、教育実践に関する未公刊の論文で構成し、下半期の刊行においては当該年度の「センター」の活動内容を報告する年報を加える。

### 2. 編集委員会

- (1) 研究紀要の編集は、編集委員会を設置して行う。
- (2) 編集委員会は、山口大学教育学部附属教育実践総合センター運営委員会規則第3条第1号、同第2号、同第3号の委員をもって構成し、センター長を委員長とする。
- (3) 編集委員会は、原稿の募集、掲載論文の採択、研究紀要の構成、研究紀要の体裁等に係る判断を行う。
- (4) 編集委員会は、掲載論文の採択に係る審査を行うにあたり、投稿者に対し、投稿原稿の一部修正を求めることができる。

### 3. 投稿資格

- (1) 研究紀要に投稿することができる者は、下記の各項の該当者とする。ただし、第3項および第4項の場合については、第1項または第2項の者を共著者とすることを条件とする。
  - ① 山口大学教育学部および附属学校の教員
  - ② センターの客員教授、客員准教授、研究員
  - ③ 山口大学大学院教育学研究科の大学院生
  - ④ 編集委員会が特に認めた者
- (2) 研究紀要1号あたりの投稿数は、筆頭者としては1名2論文までとする。

### 4. 経費負担

- (1) 研究紀要の発行に係る経費は、センターの運営費をもって充てる。ただし、執筆要項に示すページ数を越える場合、図版、写真等の掲載で別に経費を要する場合は、執筆者の実費負担とする。
- (2) 別刷は、執筆者の実費負担とする。

### 5. 著作権

- (1) 研究紀要に掲載された論文の複製権、公衆送信権は、山口大学教育学部に帰属する。ただし執筆者（共著の場合は筆頭者）の申し出により、公衆送信権を行使しないことができる。
- (2) 前号の規定は、執筆者自身による複製、公衆送信等を妨げない。
- (3) 論文執筆における他の著作物との関係への対処は、執筆者が責任を負う。執筆者は著作権その他倫理規範に反する問題が生じないように十分に配慮しなければならない。

### 6. その他

- (1) 各論文の投稿原稿は、別に定める執筆要項にしたがって作成するものとする。
- (2) 執筆者による校正は、初稿までとする。
- (3) 研究紀要の刊行に関する事務は、教育学部事務局において処理する。

## 教育実践総合センター研究紀要 執筆要項

1. 原稿は、原則として文書作成PCソフトで作成し、印字した原稿に文書ファイルを保存した記録メディア（CD等）を付けて提出する。
2. 原稿の基本書式は、A 4 サイズで横書き、用紙余白は上下左右すべて20mm、MS 明朝体10ポイントで横48字×縦48行とする。
3. 原稿の枚数は、本文、標題、要旨、図版、注等すべてを含め、原則10ページまでとする。
4. 原稿の記載順序は、最初のページに、題目、執筆者名、英文題目、英文執筆者名、キーワード（5つ以内）を記載し、次に本文、その後に注・参考文献とする。ABSTRACTを記述する場合は、原稿の最末尾とする。
5. 本文の見出しは、以下の階層で表すものとする。

階層 1	1.	2.	3.	（11ポイント MS ゴシック体 上下の行をそれぞれ 1 行あけ）
階層 2	1－1	1－2	1－3	（10ポイント MS ゴシック体 上の行のみ 1 行あけ）
階層 3	1－1－1	1－1－2		（10ポイント MS ゴシック体）
6. 注・参考文献は本文の最後一括して記載する。その記述様式は各論文の関連する専門分野の様式に従うものとし、著者名、文献タイトル、発行所、発行年を必ず含むものとする。
7. 図・表・写真等は本文の内容と関連したページに掲載し、通し番号と表題を示す。提出にあたってはそのまま製版できるように作成するものとする。
8. 他の著作物の図表や文章等から、引用の範囲を超える転載を行う場合は、著者自身の責任で書面による転載許諾を得るものとする。
9. 人物の顔で個人が特定可能な写真を掲載する場合は、著者自身の責任で書面により関係者の掲載許諾を得るものとする。
10. その他
  - (1) 各号の原稿募集、原稿締切は、編集委員会の決定するところによる。
  - (2) 原稿を英文で作成する場合も、この要項を準用することを基本とする。

附属教育実践総合センター  
研究紀要編集委員会

委員長	静屋 智（センター長）
委 員	鷹岡 亮 霜川正幸 大丸奈緒美 田中亜矢巳
事務員	久保田尚子

著作権について

1. 本紀要の著作権は電子化を含めて、山口大学教育学部が担当する。
2. 各論文の利用は非営利目的に限る。利用にあたっては以下の点を守らねばならない。
  - I 引用する場合には著作者及び出典を明示すること。
  - II 著作権所有者（著作者）の許可なく標題及び内容を改変しないこと。
  - III その他著作権法の規定を遵守すること。

2025年 3 月15日 発行

山口大学教育学部附属教育実践総合センター  
研究紀要 第59号

編集者 山口大学教育学部  
附属教育実践総合センター研究紀要編集委員会  
発行者 〒753-8513 山口市大字吉田1677-1  
山口大学教育学部附属教育実践総合センター